

始筆

No. 3

令和 7年 2月 3日
京都市小学校書写教育研究会

【京都市小学校児童書き初め展】

令和七年一月十八日(土)京都市総合教育センターにおいて、『第九十四回京都市小学校児童書き初め展』を実施しました。特選を受賞した児童や育成学級当番校の児童、また、そのご家族を含め、約六百人のご来場がありました。笑顔で作品をご覧になる姿を見て、会場にいた研究会員一同、たいへん嬉しく思いました。ご指導いただきました先生方、また、準備をお手伝いいただいた支部代表幹事の皆様、多くの方々に深く御礼申し上げます。

各校に、冬季休業中に特選と入選の賞状を送付しました。賞状を間違えないように、早めに児童にお渡しください。是非、受賞された児童の作品を校内展示していただき、子どもたちの励みになるようにしていただけたら幸いです。



京都市小学校児童書き初め展の様子です。
たくさんの方が観に来られました。

【令和六年度 京都市小学校書写教育研究会 実践公開授業】

令和六年十一月二十二日(金)に、実践公開授業を行いました。他校からもご参会いただき、本研究会の取組について報告を行いました。本研究会の取組を客観的に見て、今後の実践のためになるご感想やご意見をいただきました。また、本研究会元会長の指導助言からもたくさん学びを得ましたので、『始筆』でも報告いたします。

〈六年実践〉

書写「レッツ・トライ 枕草子を書く」

今回の実践公開授業では、右下に記述した三点に重点をおいた授業実践を行いました。

(1) カリキュラム・マネジメントを活かすこと
国語科「秋の深まり」

俳句や短歌、枕草子の一節
総合的な学習の時間「地域の方へのお礼の手紙」
便箋の書き方・中心線・配列に気を付けて書くこと
社会科「貴族のくらし」

平安時代 仮名文字の学習

(2) 学習支援ソフト(GIGA 端末)を活用すること

児童が自分の試し書きの作品を学習支援ソフトのカメラ機能を使って撮影し、気を付けたところに自分で注釈(中心線や字形、配列、文字の組み立て等の既習事項)を書き込み提出することで、本時の課題が視覚的に分かりやすくなるようにしました。また、基準確認では、児童が提出した写真を使うことで、本時の自分のめあてが明確になるようにしました。

(3) 自分のめあてに合った道具を使うこと

本時の授業のめあて「文字の大きさや配列に気を付けて書く。」を基本に、①「文字の大きさ」②「行の中心」③「字間・行間」の三つの中から自分のめあてをもたせました。授業前に、水書セットと中心線や正しい字形が分かる透明シートを配布しておき、いつでも自分のめあてに合った道具を使って自己批評ができるようにしました。

●事後研修会

【感想より】

・学習の流れを **めあて** ↓ **試し書き(写真撮影含む)** ↓ **基準確認** ↓ **練習** ↓ **まとめ書き** ↓ **日常化** のルーティンにすることによって活動量を増やすことが可能になっている。

・鉛筆の持ち方を定着させるためには、低学年からの積み重ねが必要だと思った。
・自己批評だけでなく他己批評することで、さらに見る目を育てられるのではない。
・準備物をしっかりと用意しておくことで、児童の学習意欲が高められるということを再確認できた。



中心線・字形の透明シートを使っています。

水書セット・練習用紙・手本用紙・透明シートセット

GIGA 端末を使って、自己批評しています。

この機関紙「始筆」の書体は、UDデジタル教科書体です。児童が目にする文字は、できるだけ正しい書体にしましょう。